令和2年度　　園評価書

園名：　三保こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている、B：できている、C：あまりできていない、D：全くできていない）

1、教育保育目標	重点目標	評価指標	園説明	自己評価	園関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組、目標等）
自分が好き 友だちが好き こども園が好き	もっとやりたいと意欲的に遊ぶ	歴史ある三保の文化や自然に触れ親しみ、遊びの中に取り入れていく	前期は年長児の神輿作りで、後期は親子遠足で三保の文化や自然に触れることができ、保護者の方々にも好評だった。またトマト農家さんとの交流や散歩にでかける機会も多く、拾ってきた自然物を遊びに取り入れることができた。	A	A	・三保の文化や自然を行事や遊びに取り入れることができていて良かったと思う ・遅番で塗り絵をしている子どもたちも作品をとっておくことができ、遊びの続きができるようにしてくれていた。また、ブロックなどの作品もとっておくことができ、遊びを継続して楽しめていたと思う	今年度様々なかたちで三保の文化や自然に触れることができた。引き続き、子どもたちが三保の文化や自然を遊びに取り入れることができるようにしていって欲しい
		子どもの興味関心を捉え自分のやりたい遊びを十分できる環境（時間、場所、教材）を保障する	遊びが継続できるようにとっとき棚を作ったが、取りあえずの片付け棚になっていたり、遊びを広げていくための環境の再構成を考えたりすることができず、遊びの環境に変化がなかった。	B	A		子どもたちは新しい遊びに興味を持って取り組む姿が見られるが、遊びが継続していかないので遊びの環境を工夫して遊びが継続できるようにしていって欲しい
		自分の好きなことを様々な方法（絵画、制作、歌、リズム運動など）を使って表現できる場や時間を作る	歌や製作は各クラス発達に合わせて日々行うことができていた。参観会に向けて表現遊びや楽器遊びも経験できた。自分の好きなことを表現する場や時間を作るためには、遊びの中で自由に楽器を使えたり、自分たちで作った物で遊ぶことができたりする環境を作る等の工夫が必要だった。	B	B		絵を描いたり、歌をうたったり様々な方法で表現することを楽しんできたが、子どもたちがもっと自由に様々な表現方法を楽しめる環境作りをしていって欲しい

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	園関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組、目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	年齢ごとの発達をふまえ、一人ひとりの発達や経験に応じた援助を行っている	個の発達について悩んだ時には、会議、座談会などで発信し職員間で関わり方など共有することができた。子どもたちの成功体験や達成感が味わえる経験を積み重ねていくためには、子どもの思いに寄り添い一人ひとりにあった丁寧な関わりが必要なところもあった	B	A	・若い保育教諭たちが保育の悩みを発信する場（座談会）を設けたことで、悩みを発信したり、子どもの関わり方など共有することができたりと、以前からの課題が少しずつ改善されているところが成果だと思う ・子どもが家に帰ってきたら「今日は何をして遊んだ」などと園でのことをよく話をしているが、自分から「今度はこうしてみたい」と言うことがないので、子ども自身が『もっとやってみたい』と思えるような環境作りをしていって欲しい ・アレルギー児の誤食があって課題があったようだが、前期の反省をいかしてヒヤリハットの事例やデータを保護者に発信したり、避難訓練や不審者訓練の反省を会議で職員で共有したりすることができていた ・基本的生活習慣に関しては、個人差があったり家庭によっても様々だと思うので、家庭の協力が必要だと思う。家庭と連携が必要だと思うので、こども園から保護者へ発信をしていけるといいのではないか ・一人ひとりに合った支援計画に関しても、保護者と共通理解ができるようにこども園から発信をしてけるといいのではないか ・玄関の遊びマップに関しては、今年度あまり活用できなかったようなのでもっと活用できるようにしてけるといい ・新型コロナウィスルの感染が広がり、行事や小学校との交流など計画通りにできないことが多かったと思うが、行事の仕方を工夫したり、小学校や近隣の施設との交流なども映像や手紙など工夫して交流できていてよかった	1人ひとりの発達には違いがあるので、個に応じた援助をしてもらえるように珀寿会の職員と引き継ぎを行っていきたい
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人ひとりの生活リズムや発達を理解し、安心・安定して園生活が送れるような生活の流れを作っている	一人ひとりの生活リズムなどを把握するために、家庭との連携を取りながら安心して園生活を送れるようにした。個々に応じた対応や保護者支援などは珀寿会の職員にきちんと引き継ぎ保育の中で伝えていく必要がある	A	A		新しい園になるので子どもたちが安心安定した園生活が過ごせるように、個の対応や保護者支援について珀寿会の職員に丁寧な引き継ぎを行っていきたい
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「こんな遊びをしたい」「もっとやってみたい」というわくわく感を持つことができる環境作りをしている	子どもの興味や季節に合わせた遊びの環境作りを意識していたが、遊びの継続やワクワク感が持てるような環境の変化などがなかった。子どもたちとの振り返りからどんな物が必要なのか子どもたちと考えたり、保育者からのスパイスをプラスするなどの工夫が必要だった。	B	B		子どもたちのあそびを見て遊びの環境を変化させたり、他のクラスと連携をとりながら環境を整えたりできるように園内研修を行っていって欲しい
2 安全管理指導	(1)事故防止防災	避難訓練や不審者訓練、交通安全指導、アレルギー面談を定期的に行い、安全対策を確実にすると共にヒヤリハットを記録・分析し事故防止につなげている	ヒヤリハットだけではなく、避難訓練や不審者訓練の反省を会議で共有することができた。園内のヒヤリハットの事例やデータをまとめ保護者に発信できたこともよかった。	B	A		新しい園に移行するので、アレルギー児に関しては引継ぎを確実に行っていく。園舎もかわるが今年度の自園でのヒヤリハットなどのデータをまとめたものを珀寿会の職員にも伝え参考にしてもらい来年度に活かしてもらう
3 保健管理指導	(1)健康教育の充実	個人差に応じた関わりをし、家庭と連携を取りながら食事、着脱、排泄などの基本的生活習慣が身につくようにしていく	基本的生活習慣に関しては個人差があり、個々に合わせた対応を心掛けた。個人差が大きいので、家庭との連携を取り合っていく必要がある。園で出来た小さなことでも保護者に伝えていくという丁寧な支援が必要だった	B	B		引継ぎ保育の中で一人ひとりの基本的生活習慣について把握してもらい、来年度は家庭と細やかな連携をとりながら進めていって欲しい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人ひとりに合った支援計画を作成し、きめ細やかな支援をしていく	作成したサポートプランは職員で共有できた。サポート支援研修には珀寿会の職員にも参加してもらうことができた。サポートプランはスモールステップで楽しくゆったりとした気持ちで過ごせるように支援していきたい。またサポートプランで有効だった支援方法もきちんと共有できるようにしていきたい	A	B		支援が必要な子に関してはサポートプランを引き継いでいけるように来年度に向けてのサポートプランの土台を作成していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員がお互いに情報を共有し、連携を取り合い共通理解を持って教育保育を進めていく	コロナ禍で行事など変更になることが多かったが、会議等で検討して職員間で共有できた。会議に参加できない職員には会議録などを配布し共有した。他のクラスとの連携を取っていくためにも幼児会議、乳児会議は目的意識をもって取り組む必要がある	B	B		職員が情報を共有し、連携をとり合い共通理解を持って三保こども園の教育・保育を引き継いでもらえるように引継ぎ保育をすすめていく
6 研修	(1)研修体制の充実	日々の保育の振り返りを通してテーマに沿った研修を深めていく	公開保育ではビデオなどを活用してみんなで同じ場面をみて、意見交換するなどの研修ができた。玄関の遊びマップに関しては十分な活用ができなかった。遊びマップを活用するような園内研修を取り入れればよかった。	B	B		新しい遊びに興味関心を持ち遊び始める子が多いが、遊びが継続していかないので、遊びが継続し、広がっていくような環境が作れるように園内研修をすすめていって欲しい
7 教育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもたちが安心、安全に遊ぶための安全点検や教材研究をし、教育・保育に取り入れていく	コロナ禍ということもあり、玩具の消毒など意識して行うことができた。消毒をしながら玩具の破損状況などの確認もできた。早番・遅番の玩具や幼児クラスの消毒は十分にできていないこともあった。	B	A		新型コロナウィスル感染症も今後も続くと思うので、玩具などの消毒方法について伝えていく。また子どもたちのあそびを継続させていくための教材研究などを引き続き行ってもらう
8 家庭との連携協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	おたよりやボード（写真入り）、連絡帳等で保育内容を伝え、保護者と子どもの成長を共に喜び子育ての楽しさを共有していく	子どもの様子や行事への取り組みなど写真を活用しておたよりやボードを作り保護者への発信ができた。行事への取り組みのところでは子どもたちの話し合い活動の様子や遊びの変容などの過程をおたよりで発信していけばよかった。	A	A		写真入りの手紙のボードは保護者にも好評なので引き続き行っていってもらう。遊びの変容や話し合い活動の様子など過程がわかるような手紙を発信できるようにしてもらう
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	行事や公開保育、園だよりの発信等を通して近隣の小学校と連携をはかり情報交換や研修をしていく	コロナ禍で直接子ども同士での関わりが出来なかったが、小学校の養護教諭さんにコロナを含めた感染症予防について話をしてもらったり、マラソン大会の応援に行ったり、年長児が一年生に手紙を書いて交流したりと今年度はできる範囲での交流はできた。	A	A		新園になると小学校との距離が遠くなってしまうが、参加可能な行事に参加したり、小学校の先生に公開保育にきてもらったりできるように働きかけていく。また引き続き園便りの発信を行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	三保地区の行事への参加や「そな～れ」訪問に出かけたり、折戸地区との交流を行ったりしていく	来年度に向けて折戸こども園との交流も後半は行うことができた。またそな～れさんとは昨年度のような交流はできなかったが、ビデオ映像や作品を通して新しいかたちでの交流ができた	A	A		新園になると『そな～れ』との距離が遠くなってしまうが、作品や映像のやりとりや近くの公園で交流するなどの工夫をし引き続き交流できるようにしていく